2014年1月19日

夕立の森

The Experimental Village:
An approch To Global Problem
Based on Agrarian Values
地球的課題の実験村

第58号

HYAKUSHO-HYAKUSHO.HYAKUSHO-HYAKUSHO.

百姓百生　その５２

これって地獄の黙示録じゃん

堀内祐治さん

HYAKUSHO-HYAKUSHO.HYAKUSHO-HYAKUSHO.

最初に夕立の森計画を知ったのは『生命(いのち)めぐる大地』という一冊の本でした。そこに書いてある内容や絵は、成田に引っ越したての僕には、へぇ～　人為的に雨降らせられるの？…　ほんとに？…　なんでそんなことすんの？　と、理解できませんでした。

それから幾日か農作業をしながら、何気ない仕事合間の世間話から、成田空港の歴史や開墾の歴史などを聞きました。そっか～　空港できる前はいろいろもめたんだね～　人生いろいろあるしね～　なんて思ってネットになんとなく打ち込んだ「三里塚」の文字、そこに出てきたYOUTUBE(ゆーちゅーぶ)の映像を見て茫然。なにこれ？　えっ地獄の黙示録？　人が木に縛られているのにチェンソーで倒されているじゃん？　大きな監視塔が倒されて爆発しているじゃん？　人乗ってたよね？　西部警察？

このときの衝撃はメタリカ（アメリカのロック）を爆音で聴いた時のような、暗黒の恐ろしい映像が目の前にありました。

ここへ来る前は旅が好きで、仕事をしては旅に出るという生活を繰り返し、成田空港を愛用していた僕にとって、あんな血を流した土地の上に成田空港があり、そんな歴史も知らなかったチャランポランな僕は、自己嫌悪になるくらい衝撃を受けたのと同時に、国家権力と戦う若かりし親っさんたち、めちゃくちゃカッコイイと鳥肌もんでした。

ある日、自然の中に入り、植物の葉っぱを見つけては石で磨り潰し、ドラクエの薬草とかいって仲間を治療した気になっていた子供時代を思い出し、今でも民族音楽や少数部族の話を聞くとわくわくする僕は、ジャングルとか行きたいな、日本だと原生林少ないし、近場だと里山かな？　そして里山にいきたいな～　がスタート、どっか無いかなと思っていたら、夕立の森を思い出し、さっそく平野さんに連絡、いいよ～　とのことだったのでさっそくおじゃましました。

夕立の森には平野さんをはじめ４名で行きました。何もわからない僕に、木の種類や毒のある植物、甘い木などいろいろ教えてもらい、肉桂(にっき)をしゃぶり、子供の頃を思い出しました。そして夕立の森が、空港建設の時、一方的に森林伐採をした空港側に反発するように夕立の森建設も始まったことを知りました。

いまでも無知な森林伐採や経済優先の自然破壊が当たり前で、食品廃棄物は生産と廃棄がほぼ同額という始末、作っても捨てるのと

一緒？　餓死する子もいるのに？

それでも農業を志す仲間はトラクターを買い管理機を買い、大きな畑を借り、今の農業環境に飛び込んでいきます。

もちろん安定した食物提供は農業の重要な責任ですが、安易に食べ物をゴミにする家庭やレストラン、コンビニがあるなかで、農に携わる人として出来るだけ多くの人に、食べ物が出来る過程や現状を知ってもらい、多くの人に自給してもらう市民農園のようなものが必要だと思いました。それと同時に多くの人に、里山の楽しさ、重要性を伝えられるような活動をしていこうと思います。

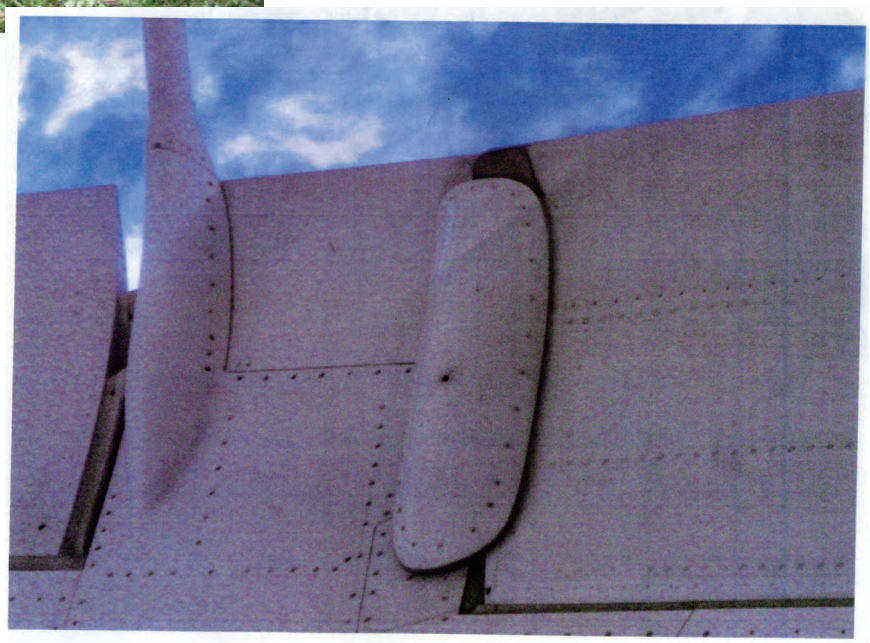
（三里塚ワンパック）

北総大地夕立計画とは

平野靖識

毎月第３土曜日を中心に、芝山町小寒田にある里山「夕立の森」に入り、一日きこりで軽く汗を流している。目的は荒れた里山の再生。去年、１０年あまりの森の掃除でそろそろやることが無くなったかなというとき、隣りの林の地主さんが「おら家の林に入ってもいいよ」といってくれた。約束ごとはただ１つ、「ばあさんがタラの芽を楽しみにしてるからタラの木は切らないでくろ」。その菅沢さんのスギ林の長い列を１本ずつ掃除し、現在３列目にとりかかっている。この秋房総をかすめた大型台風２６号で、「夕立の森」でも何本か木が倒れ、篠竹トイレが倒壊、あずまやも片がる被害をうけた。１１月と１２月の作業日にはこれらを修復、新年からはまた菅沢さんの林にとりかかる。

夕立の森



航空機から落下物
次ページに記事

「落とし放題」は許されない
航空機落下物事故報告　その２

成田市東峰在住　樋ケ守男

国や空港会社に責任はないのか

前号報告の、東峰島村さん畑への航空機落下物がキャセイ航空の主翼フラップに固定されたフェアリングであることが判明したのは、発見後９日目の７月２５日だった。（写真：前ページ）

国土交通省と成田空港会社の報告が島村さんと東峰部落に対して、９月５日と１０月１０日、２度行われた。２度にわたったのは、最初の報告があまりにもずさんで、不誠実だったからだ。報告は、発見から判明までの事実経過が６項目で、７項目目の被害状況には「被害なし」との一言。落ちたという事実だけで被害はある。日夜墜落や落下物の直下に暮らさざるをえない住民の不安や恐怖が現実のものとなったのだ。

続く航空会社関係項目では、キャセイが着陸直後に部品の脱落を確認しながら、香港本社への報告だけで、飛行可能として離陸。そのために照会への回答が９日もかかったという。そして、「原因は取り付け金具の金属疲労による破損」であるとしながらも、その部品がどれぐらい使われていたのか、耐用時間はもともとどれぐらいかなど、国は調べていなかった。

「再発防止」では、キャセイが同部品使用機を点検、新しい部品が入手できたら交換を実施するとあった。が、キャセイから国への報告書は公開できないと言い、かつそのキャセイが来ていないのだから、話にもならない。報告の全体が、「落下物」は航空会社の問題で、飛ばさせている国や空港会社には責任が無いといわんばかりの報告内容で、とても納得できるものではなかった。

ボルト１本の落下で滑走路閉鎖はウソ

２回目の報告書は、被害状況を「人的・物的被害なし」と直しただけだった。が、キャセイの成田支店長と整備部長が出席し、原因と対応策が具体的になった。当該部品については、今までは製造会社（ボーイング社）の指示期間（１１２５日又は６０００飛行回数）で点検整備していたが、それで疲労が確認できなかったので、今使っている全機の部品を新品に交換するとともに、点検期間の短縮をボーイング社に申入れたとのことである。

ただ、同社が持参した謝罪文に添付されていた写真を見て愕然とした。フラップの部品ということだったので、フラップの出し入れと同時に上下し普段は内蔵されているものと思っていた。というのは、『着陸機を直後に整備員が視認し、ボルト一本でも部品の脱落を確認した場合は、即時滑走路を閉鎖して部品を捜索する』と聞いていたからだ。であれば、あんな大きな部品脱落を見逃すはずはないと。ところが、写真にあるようにフラップがスライドして上下しても、フェアリング自体は常に翼の下にあるのだ。従って着陸直後に整備員が視認し、キャセイ本社に報告がすぐなされたという。が、その連絡は９日後だった。

「前の説明はウソだったのか」と聞くと、成田では、日本の航空会社は部品脱落を即時報告するようになっているが、半数をしめる外国機にはその「義務」はなく、「要請」を繰り返すだけしかできないという。

地球環境は、一部の人々のものではない

「飛行機を飛ばす人たちは、常に下にいる人のことも考えて欲しい」と、島村さんが言った。墜落事故と違って、落下物事故は、事故への刑事罰もなく、金銭補償が航空会社（もしくは所属国）の責任でなされるという。外国では「落下物」という認識もなく、そうした事故統計も無い。ある意味「落とし放題」である。

こうした国家や大企業優先の論理を変え、地上であれ空中であれ、地球環境を一部の人々の恣意的な利用から、生命あるものたちのもとへ取り戻す。「落下物対策」もその長い闘いの一部であろう。願わくば、その間に「部品爆撃」で一つの生命も失われることのありませぬように。

２０１４年度実験村
年次寄り合い

恒例の年次寄り合いです。この１年を振り返り、今年の活動計画を話し合います。ご参集ください。

日　時　４月５日土曜日
　　午前１０時３０分から１２時

場　所　夕立の森
　　最寄駅：芝山千代田

備　考　弁当持参

寄り合い終了後、場所を変え、弁当を食べながら花見をします。

問い合わせ
　０９０－４１７５－４９６７　大野

追悼　萩原進さん

暮れの２１日、東峰部落の萩原進さんが、心筋梗塞により急死された。萩原さんは８３年に分裂した反対同盟の私が支援していないほうの事務局次長でした。が、私が２３年前に東峰に住んで以降は、集落の一員としてお付き合いさせていただいた。

盆踊り、神社掃除、葬儀、旅行･･･。とりわけ、東峰神社林裁判は神社の土地や林が集落の総有物であることを訴えた裁判であったため、最初から最後まで全員一致の闘いが求められた。それぞれが譲れない立場を抱えながらも話合いを重ね、みんなが「納得」できる戦術や言葉をつむぎ出した。萩原さんにはそうしたいくつもの場面で教えられたことが多々あった。

ここ数年、部落の会合や行事はお子さんに代替わりされたが、仕事もされていたし、予想もしなかった６９才の死であった。「草葉の陰」におられるとしても、まだ話し続けたいと思いが残る。

心よりご冥福をお祈りします。

（樋ヶ守男）

活動予定

2月　1日(土) 　　8日(土)	麦大豆畑トラスト	味噌つくり
15日(土)	北総大地夕立計画	山仕事
3月15日(土)	北総大地夕立計画	山仕事
4月　5日(土)	年次寄り合い	
19日(土)	北総大地夕立計画	山仕事
4・5月	麦大豆畑トラスト	草取り
17日(土)	北総大地夕立計画	山仕事
6月	麦大豆畑トラスト	麦刈り

～村民になってください～

実験村は、いまの社会のありようと、私たち自身のくらしを足元から問い直そうという試みです。国際空港という巨大開発に抗し続けてきた三里塚の地を拠点に、人々と結びあいながら水を、土を、森を、人を大切にする“もうひとつの里”づくりをめざします。あなたもぜひ、村民になってください。

○村民費　　３０００円
○麦大豆畑トラスト　５０００円
○通信購読のみ　　１０００円　※年３回

郵便振替　００１４０－３－９２５５５
地球的課題の実験村

＜問い合わせ＞
電話／FAX：０４７６（２６）１６５４ 平野
メール：jikken-mura@jcom.home.ne.jp
ＵＲＬ：http://members2.jcom.home.ne.jp/jikken-mura/

【編集後記】

編集作業をしている時期、沖縄では名護市長選挙、東京都知事選挙と、これからの時代を占う重大な選挙が迫っていた。安倍政権が生まれて、時代の後戻りがいちじるしい。秘密保護法、集団的自営権、原発再稼働と輸出の推進、などなど数えあげればきりがないほどだ。成田空港の運営や地域対策も強権的なやり方が進む可能性がある。一方で、今号で登場した堀内さんのような若い世代の登場もある。せめぎあいの時代が続く。（お）

■編集・発行／2014年１月１９日「地球的課題の実験村」
■購読料／年間1,000円（年３回）
■５８号編集担当／大野和興・平野靖識
■共同代表／柳川秀夫　千葉県山武郡芝山町香山新田２２
大野和興　埼玉県秩父市大宮５７３４－４